

平成30年3月20日

由利本荘・にかほ地域生徒指導研究推進協議会「平成29年度研究のあゆみ」

巻頭のあいさつ

会長 今井 智幸

(秋田県立本荘高等学校校長)

「命を大切にすることの指導はどうあるべきか」という全体テーマの下、「平成29年度由利本荘・にかほ地域生徒指導研究推進協議会」の「各部会・総会」が平成29年6月15日(木)に、そして「全体研修会」が10月18日(水)に、それぞれ西目公民館シーガルで開催されました。小学校、中学校、高等学校の各教職員、県と市の教育委員会の方々、市民福祉部子育て支援課の家庭相談員、警察署生活安全課の職員、公共交通機関の関係者、保護司会の方々と、小中高の各学校をはじめとして、児童生徒がかかわる地域の関係機関の皆様方の御参加をいただき、今年度も有意義でありある生徒指導研究推進協議会を実施することができました。改めてお礼を申し上げます。

時代の急激な変化により、複雑化する児童生徒をめぐる課題に対して、学校全体で生徒指導體制を十分に機能させる必要があることは論を俟ちません。そして、小学校、中学校、高等学校がそれぞれ学校種間の連続性を意識しながら教育活動を行う「縦」の連携と、学校間の交流や情報交換など、「横」の連携を行うこと、この「縦」と「横」の連携を組織的・継続的に行うことが大切になっています。更に、学校と家庭・地域・関係機関との連携・協働も一層重要視される時代となっています。

ところで、児童生徒の一人一人の成長は、個々の性格・能力、家庭での養育、学校教育によってすべてが決まるものではなく、地域社会にも大きく影響を受けます。生活環境の基盤としての地域社会は、児童生徒の感じ方、見方や考え方、ひいては価値観にも影響を及ぼします。児童生徒は、家庭の中で育ち、様々な集団に属しながら地域社会とかかわり、様々な環境の影響を受けながら、社会性を身に付け、成長します。その意味で、地域の特性や文化・産業等をよく理解する、すべての小学校・中学校・高等学校のみならず、県と市の教育委員会をはじめ、市役所・警察署・公共交通機関・保護司といった、児童生徒がかかわる関係機関の皆様が一同に集い、生徒指導についての研究推進協議会が実施されることは、本当に意義深いことです。

かつて、問題行動と言えば、喫煙、飲酒、家出、万引き、暴力行為等が中心であった時代がありました。社会が急激な変化を遂げる中であって、児童生徒や学校を取り巻く環境も変わり、近年はインターネット上での有害情報・誹謗中傷や児童生徒の心身の健全な発達に重大な影響を及ぼすいじめ等がクローズアップされ、社会問題化しています。これらは、「情報活用能力の育成」、「情報モラル教育」、「社会的なリテラシーの育成」、「命の教育」等の重要性が指摘される背景となっています。

本来、生徒指導とは問題行動に対する対応にとどまらず、「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のこと」です。また、未来の社会の形成者という視点からは、「社会の中で自己実現を図りながら、個々の幸福を追求すると同時に、社会の発展をも追求する資質・能力を涵養する教育活動」とも言えます。児童生徒には、自立して、自らを律し、他と協調しながら、その生涯を切り拓いていく力や、よりよい社会の形成者となる力が求められ、大人や社会はその責務を負っているということです。

時代が複雑化・多様化し、急激な社会変化の中であって、明日の未来を担い、地域を支えるのは、いつの時代にあっても若者です。自己指導能力、課題解決能力、社会的なリテラシーの育成にもつながる生徒指導の意義は、一層重要性を増しています。今後もますます、学校と保護者・地域・関係機関との連携・協働が必要不可欠となり、生徒指導研究推進協議会の充実と発展が期待される所以です。

※社会的なリテラシー…単に、知識や技術、断片的な個々のリテラシー、社会的な資質や能力を身に付けるだけでなく、社会の中で、その時々状況を判断しながら、それらを適切に行使することによって、個人や社会の目的を達成していく包括的・総合的な能力。